キズナエピソード

袖城 セイラ　5話

//ヴィジュアルノベル形式開始

//背景：黒

あの日の出来事をきっかけに、

俺とセイラの関係はおかしくなってしまった。

学校でセイラと話したくて近づいても、

用があるからとつれなくされる。

……俺は明らかに避けられていた。

//ヴィジュアルノベル形式終了

//ADV形式開始

//都立有羽

［セイラ］

［……」

［ここあ］

「おやおやお～や？

なんだかセイラ、日に日に暗くなってるよね～。

なにかあったのかにゃ～？」

［セイラ］

「別に……なんでもない……」

［ここあ］

「はぁ～。セイラは嘘つくのが下手だよねぇ。

何か悩みごとがあるならさ、人に言うのが良いらしいよ？

口に出すと、自分の中で問題が整理されるんだって」

［セイラ］

「ここあ、私は大丈夫……」

［ここあ］

「セリフと表情があってないんだよねぇ。

ま、何があったかはなんとなく想像付くけど。

だって、最近とびおっちと一緒にいないもん」

［セイラ］

「……」

［ここあ］

「ズバリ～……とびおっちに襲われそうになったっしょ？

いや～、男は狼だからねー。セイラはびっくり――」

［セイラ］

「うぐっ……うぅっ……」

［ここあ］

「え？　え？　セイラ、なんで泣くの？

もしかして、ホントのホントに？

とびおっちにやられちゃった感じ？」

［ここあ］

「何？　何されたの！？

場合によっちゃあ、とびおっちの脇腹を五億回つつく！」

［セイラ］

［……違うの。ここあ」

［ここあ］

「じゃあ、何があったのさー！」

［セイラ］

「……この前、とびおが事故に遭いそうになったの。

それが、姉を失った時と重なって……。

私、ひどく取り乱しちゃって……」

［セイラ］

「だって、もう嫌なの！

大切な人が出来て、また失ってしまうのが怖いの！」

［セイラ］

「あんな辛い思いをするくらいなら、

とびおのことを大切だなんて思いたくない……。

だから……」

［ここあ］

「ふ～ん、なるほどね～……。

でも、それってもう遅いんじゃない？」

［セイラ］

「もう、遅い？」

［ここあ］

「そ。だって、そんなこと言うってことは、

実際には、とびおっちのこと

めっちゃ大切だと思ってるわけでしょ？」

［ここあ］

「じゃあ、もう遅いよ。

一度大切だと思っちゃったなら、

それはもう大切なんだから」

［ここあ］

「むしろ、自分の気持ちに嘘ついて……

会いたいって気持ちに蓋しようとしてるから、

そんなに苦しいんじゃない？」

［セイラ］

「……」

［ここあ］

「セイラ、もっと素直になっちゃえば～？

このまま前に進まないのは、

とびおっちにもセイラ自身にも失礼だと思うよ？」

［セイラ］

「素直に……なる……」

［ここあ］

「そうそう。セイラはもう十分ガマンしてきたんだから。

ちょっとくらい自分の好きなように生きても

バチは当たらないって」

［セイラ］

「自分の……好きなように……」

//ヴィジュアルノベル形式終了

//5話END